緩和ケア外来の開設について

8月19日（水）より、緩和ケア外来を開設いたしました。
外来枠は右記の通りです。

時間	毎週 月曜日	毎週 水曜日
14:30〜15:00		1枠
15:30〜16:00	1枠	

消化器がん診断治療専門外来の開始について

9月28日（月）より、消化器がん診断治療専門外来を開始いたしました。消化器内科・消化器外科の医師にて、消化器全般を診療させていただきます。（WEB予約は消化器内科より取得できます。FAX申込は消化器内科にチェックいただき、備考へがん診断治療とご記入ください。）
外来枠は右記の通りです。

時間	月曜日〜金曜日
13:00〜13:30	1枠
13:30〜14:00	1枠

周術期における当院のリハビリテーションの取り組み

当院では、膀胱全摘術を受ける患者に対し、周術期リハビリテーションを実施しています。術前は入院時に呼吸機能や身体機能、歩行能力、ADLを評価するとともに、呼吸訓練や早期離床の重要性について指導を行い、術後の円滑な機能回復に備えます。術後は全身状態を十分に評価しながら、端座位・立位・歩行へと段階的に介入し、呼吸器合併症や廃用症候群の予防、身体機能およびADLの早期回復を支援しています。また、排尿ケアチームの一員として医師・看護師など多職種と連携し、排尿自立に必要な移動能力や身体機能の改善を図るとともに、患者の状態に応じたリハビリテーションを提供し、早期退院および円滑な在宅復帰を目指しています。



岡崎医療センター公式 Instagram 開設のお知らせ!

院内の雰囲気や医療スタッフの取り組み、イベントのご案内等、患者さんに役立つ情報を発信してまいります。
ぜひフォローいただき、岡崎医療センターを身近に感じてください。

FHU_OKAZAKI

患者さんのご紹介・お問い合わせ
藤田医科大学 岡崎医療センター地域医療連携部医療連携室
愛知県岡崎市針崎西2丁目6番地1 TEL:0564-64-8200

NEWS LETTER FUJITA OKAZAKI

地域の医療機関の皆さまへ



ニュースレター［NOVEMBER.2026］Vol.28

藤田医科大学 岡崎医療センター
FUJITA HEALTH UNIVERSITY OKAZAKI MEDICAL CENTER

特集

「見つける」から「治療」まで。泌尿器がん診療の新たな選択肢

〜MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺生検×ロボット支援手術〜



前列：左から 日下守教授、中村渉医師　後列：左から 小宅真基也医師、伊豫田郁也医師

CONTENTS

- 泌尿器科のご紹介
- MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺生検について
- 医療機関の皆さまへメッセージ
- ロボット支援手術について

泌尿器科のご紹介

泌尿器科HP

外来医師担当表

藤田医科大学腎泌尿器外科学は2009年より全国に先駆けてロボット支援手術を導入いたしました。岡崎医療センターではこの流れを受け継ぎ、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医が常勤し、泌尿器ロボット支援手術プロクター認定医（前立腺、腎、膀胱）の指導の下、患者さんにやさしい治療を心掛けています。ロボット支援手術や腹腔鏡手術等の低侵襲手術をはじめ、悪性腫瘍、尿路感染症、排尿障害を中心に診療いたします。現在4名のスタッフでお互い日々切磋琢磨しながら診療を行っています。





藤田医科大学 医学部
腎泌尿器外科学

日下 守 教授

専門医

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医

その他

日本臓器保存生物医学会 理事長

医療機関の皆さまへメッセージ

2026年4月から4名の医師(日下、中村、小宅、伊豫田)による新体制で日々の診療を行っています。いずれも個性あるスタッフで世代こそ違いますが、和気藹藹のチーム医療が当院泌尿器科の自慢です。疾患によっては当院のみで対応できない場合、藤田医科大学病院と連携をとり、地域医療に貢献できるよう努力してまいります。諸先生方どうぞ藤田医科大学岡崎医療センター泌尿器科チームにご支援ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

学歴・職歴

1991年 3月　大阪医科大学 医学部 卒業
1991年 12月　大阪医科大学 泌尿器科 研修医
1993年 6月　大阪医科大学 泌尿器科 専攻医
1995年 8月　アメリカ合衆国ボストンハーバード大学外科学教室 Research Fellow
1998年 8月　大阪医科大学 泌尿器科 助手
2002年 4月　藤田保健衛生大学 泌尿器科学 講師
2009年 6月　藤田保健衛生大学 腎泌尿器外科学 講師
2009年 10月　藤田保健衛生大学 腎泌尿器外科学 准教授
2012年 4月　藤田保健衛生大学 臓器移植再生医学 教授
2013年 1月　藤田保健衛生大学 腎泌尿器外科学 臨床教授
2018年 10月　藤田医科大学 腎泌尿器外科学 臨床教授（大学名変更により）
2020年 4月　藤田医科大学岡崎医療センター 泌尿器科 臨床教授

フローについて

ご紹介 → 診察・精査（MRI/Fusion Biopsy） → 診断・治療方針決定 → 専門的治療（ロボット支援手術等） → 術後管理・フォロー → 逆紹介・地域での継続診療

※必要に応じて、リハビリテーション部等の多職種と連携し、術前・術後の機能回復や退院を支援します。

［診断］MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺生検について

（以下 Fusion Biopsy）

対象疾患　PSA高値などで前立腺がんが疑われる方

Fusion Biopsyとは

前立腺がんの正確な病巣特定と高度な機能温存を実現するため、MRI-超音波融合画像ガイド下前立腺生検システムArtemis（アルテミス）を導入し3年を迎えます。同システムによる生検と手術支援ロボットによる前立腺摘出手術を併用することにより、機能温存（排尿障害や性機能障害等）の合併症リスクの軽減が期待できます。



※Eigen社HPからの引用

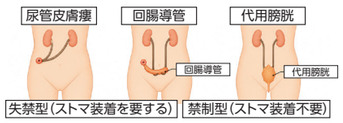
当科が導入した米国eigen社のArtemisでは、事前に撮影した前立腺のMRI画像を専用ソフトに取り込み、異常と考えられる領域をリスク別にマーキング。生検時にはMRI画像とリアルタイムに得た超音波画像を重ね合わせて3D画像化することにより、高精度で緻密な前立腺生検を実施してがんの部位を特定します。さらにAIを用いたナビゲーションシステムが生検針を正確にガイドすることによって正確な前立腺生検を実現します。これにより再生検のリスクを減らせるだけでなく、早期がんの発見も可能になり、診断と治療の幅が大きく広がることが期待できます。

紹介いただきたい患者さん

- PSA高値などで前立腺がんが疑われる方
- 以前に生検を実施したが診断に至らず、以降もPSAが高いまま、あるいは上昇が継続する方

泌尿器科 悪性腫瘍に対する低侵襲治療

前立腺がん	腎がん	膀胱がん
診 断	評 価	治 療
MRI画像診断 ▼ Fuison Biopsy	小径腎がん ▼ 術前3Dシミュレーション	膀胱全摘を必要とする場合 ロボット支援手術による膀胱全摘 ▼ 尿路変更
治 療	治 療	
ロボット支援手術	術中3Dナビゲーションを用いた腫瘍切除 ▼ 根治性と腎機能温存	
診断から治療まで一貫して対応	腫瘍の根治性と腎機能の温存を両立	膀胱全摘から尿路変更まで一貫して実施



術前術後リハビリによる早期機能回復

術後の早期機能回復を目指して

リハビリテーション科の協力のもと、術後の早期機能回復・生活復帰を目指した取り組みを行っています。

診断 → 手術 → 機能回復

チームで支える診療体制